

日本人にとって漢字とは

吉田 もう少し進んでいうと、日本人が漢字を使っているのが、ひとつの日本的なものの考え方というふうなものにもプラスになっているし、独創的な、ほかの国とはまた違った特色というのを発揮するであろうというふうなことになるわけですが、漢字のなかにはやはり東洋的な精神みたいなものが自然にはいってくるので、べつにことさら東洋精神とかなんとかいうよりも、やはり漢字を通してそういう味わいみたいなものを与えていくことのほうが基本だというお考えなんですか。

石井 漢字の持っているいろいろな東洋的な思想、そういったものも大事ですけども、現代の科学的なものでもなんでも、書かれたものを吸収する力において、漢字と仮名をうまく使った表記というものは、世界独特ですね。私は中国のものをやっていますから感じるんですけども、漢字ばかり並んだものは、読みにくくてしょうがない。そしてじつに読み取りにくいんですね。誤解も

非常に生れやすいんです。

ところが、漢字、仮名まじり文というのは、漢字と仮名というものがじつにうまく配合されていまして、パッと見て正しく読み取りやすい。そういう点で、先年チョムスキーが来たときに、「私は日本語についてはじゅうぶんな知識を持たないので、自信を持っては言えないけれども、あの漢字、仮名まじり文というのは、世界でもっとも能率的な表記方式なのかもしれない」という発言をしたのを知りまして、まさに我が意を得たりと思いました。

吉田 漢字、仮名まじり文というのがたいへん能率的なのは、なんか慣れているせいかな私もそういう気がするわけですけども、しかし、それと同時に教育というのが最近能率的になり過ぎていて、流行性みたいなものばかりで評価される。教育というのはそういう面でないものもあるんじゃないかという問題が出ているわけですけども、先生自身は自分の思想とか、そういうものの寄りどころはどういうところに求めますか。